

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 20 日現在

機関番号：23901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370639

研究課題名(和文)中国語教育におけるレリアの効果的活用

研究課題名(英文)The way of effective utilization of "realia" in Chinese language education

研究代表者

中西 千香 (NAKANISHI, Chika)

愛知県立大学・外国語学部・准教授

研究者番号：50548592

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：わたしたちは、中国語のレリア“realia”の中国語教育における可能性、妥当性について検討した。メンバーそれぞれが毎年、資料収集、そして、分析を行い、論文発表および学会発表を通して、このことを証明した。また、年に1回研究会やワークショップを行い、一般の学習者や中国語教育従事者に向けて、レリアとは何か、レリアの特徴を紹介し、中国語教育でどのように援用できるか、援用することが、これからの中国語教育にどういう意味をもつのかについて、利点を述べ、明確な示唆を与えることができた。

メンバーそれぞれが限られた時間の中で、やるべきことはやりとげ、本プロジェクトは目標を達成したと言える。

研究成果の概要(英文)： We hypothesized about the potential of utilizing "realia" in Chinese language education. To prove this, each member annually collected and analyzed related documents, and wrote and presented a thesis to an assembly of educators. Additionally, we held annual workshops and seminars for Chinese language educators and learners to introduce "realia," explain its unique points, and used examples of it in Chinese language education to illustrate its advantages.

In the limited time afforded, every member performed their job and enabled the project to successfully meet its goal.

研究分野：中国語学

キーワード：中国語 中国語教育 レリア 書面語教育

1. 研究開始当初の背景

多言語・多文化が共生する現代社会においては、異なる文化事象や習慣を知ることのみならず、それらの背景にある「目に見えない文化」(考え方や価値観)について考察し、みずからの価値観や常識を相対化する姿勢や、異質なものに対する寛容性を身につけて、異文化間調整をしながら多様な人々と協働できる力の養成が不可欠である。外国語教育においても、学習言語を用いて「適切な」コミュニケーションができる力の養成が今まで以上に求められている。

この「異文化理解」という点から中国語教育を捉え直してみると、従来の教材・教授法では不十分であるといわざるをえない。

日本における現行の中国語教科書の多くは、文法/構造シラバスあるいは場面/話題シラバスによって作られている。前者は言語の構造を体系的に学ぶことができ、後者は学習者の興味・関心のある話題や、コミュニケーションをおこなう必要性の高い場面で使われる表現を集中的に学べるといった利点がある。しかし、異文化理解のための工夫とえば、文化コラムや写真の提示だけで、しかも授業中には言及されないことも多い。中国の名所旧跡や食文化についての映像が使用されることもあるが、これらは「目に見える文化」の紹介に過ぎない。

一方、外国語のいわゆるトレーニング科目とは別に、「異文化理解」という名称の授業も存在する。しかし、そこで学ぶものはことばそのものの文化やノンバーバルランゲージが表す意味など広義の異文化理解に偏りがちであり、また講義形式の授業ではそれらを「文化(についての)知識」として得ることに終始しがちである。

これからの中国語教育においては、中国を訪れたり、中国語母語話者と接したりする際に知っておくべき異文化(商習慣やものの考え方、価値観、生活上のルール等)をことばの仕組みや表現の学習とともに学べるような工夫が求められる。それには、レアリア(=実物素材)の提示が大変有効であり、レアリアを用いて文化事象の背景まで考察できるよう、その着眼点を明らかにすることが本研究の中心課題である。

レアリアを活用した教育については、日本語教育ですでに『すぐに使える「レアリア・生教材」アイデア帖 日本語教師必携』(スリーエーネットワーク、2006)が出版されている。

しかし、当該書籍は動機付けや興味付けとしてのレアリア活用例の提示に重きが置かれ、それらのレアリアを用いることで、どのような気づき・分析を意図しているかまでは詳述されていない。また、中国語については、これまでレアリア活用に関する書籍がない。

中国語教育におけるレアリアの重要性、その活用法について、その全体を俯瞰し、分析、検討する必要がある。

2. 研究の目的

外国語教育の現場では、通常の現行テキストに追加して、看板、チラシ、食品のパッケージ、メニューやレシピ、パンフレット、雑誌、小説、漫画やアニメ、テレビ・ラジオの番組やその間のCM等、様々な媒体を教材として使うことを試みられている。

これら「実物素材」(教育のためにわざわざつくったものではなく、実生活でその国の人がみるもの)は、「レアリア“realia”」と呼ばれる。これらの活用は学習者の情意フィルターを下げ、動機づけにつながり、授業の効果を高めることができる。

しかし、これらレアリアの価値、学習のポイント、授業での活用方法など、十分な分析検討がなされていない。その原因のひとつに、紙媒体、データ媒体で作られたもの(レアリア)は、中国語が文字化されると書面語になるという背景がある。現状の中国語教育では、話し言葉重視で、書面語教育はさらに上のレベルでなければ行われぬ。

それでも、彼らは現地に赴けばこれらの中国語を目にする。そうであるならば、早い段階でもこのレアリアを使った中国語教育を導入できればより学習と実態にあったものになる。また、レアリアは中国語圏の商習慣や文化に触れることもでき、非常に有用なアイテムと言えよう。

本研究では、学習者の興味・関心を引き出す、動機付けとしてのレアリアの活用にとどまらず、こうしたレアリアのどの部分を取り上げ、どのような点に着目すれば、学習者の中国語理解、中国語理解がより深まるかを明らかにしていくことがその目的である。

その上で、中国語教育におけるレアリアの効果的活用について、より具体的で多様な提案をする。

また、レアリアを通じて異文化を理解しようとするのが、同時に自国の文化や言語を捉え直し理解を深める視点となることについても強調していく。

3. 研究の方法

以下の6点を主な研究事項とし、明らかにするために、それぞれのジャンルに基づいて、現地に赴いて、事例や資料を集め、個々の担当のレアリアを分析、検討した。

(1) 現行の中国語教育、中国語学習テキストに補うべき、異文化理解情報にはどのようなものがあるか。

(2) 語彙的、文法的な角度からレアリアについて分析をする。レアリアを知るために必要な語彙知識、文法知識とは何か。

(3) チラシやメニュー表などのレアリアから見える異文化、習慣について明らかにする。

(4) 雑誌や小説などの中国語の文章から見える異文化、習慣にはどのようなものがあるか。語彙的な側面から文法的側面まで読み取るべきポイントにどのようなものがあるか。

(5) 日本の漫画が中国語に翻訳される場合

に異文化ギャップをどのように回避しているかを語彙的,文法的な角度からみる。
(6) レアリアを活用しての中国語教育にはどのような利点があるのか。実践的事例を提示して,明らかにしていく。

4. 研究成果

(1) 年に一度ずつ,計3回,研究会を行い,それぞれの研究成果を発表し,中国語学習者,中国語教育従事者に教育の提言を行った。

一年目は,「中国語教育学会研究会 レアリアのツボ,レアリアのチカラ~レアリアで学ぶ,教える中国語のために(2013.10.12 於愛知大学名古屋校舎(愛知県名古屋市))」を行い,研究者,中国語学習者を含め,122名が参加し,われわれの研究を広く知ってもらい,意見を交わすよい機会となった。

二年目は,「中国語教育学会研究会 レアリアのツボ,レアリアのチカラ~レアリアで学ぶ,教える中国語のために 第2弾(2014.10.25 於愛知大学名古屋校舎(愛知県名古屋市))」を行い,約90名の中国語学習者,中国語教育従事者の参加があった。ここでは理論的な研究とともに模擬授業という形で,実際の授業で使うレアリアについて,提言ができた。また,提言の場としてだけでなく,授業という形で,学習者にも還元する場とすることができた。

三年目は,「中国語教育学会研究会 レアリアのツボ,レアリアのチカラ~レアリアで学ぶ,教える中国語のために 第3弾(2015.7.18 於金沢市近江町交流プラザ(石川県金沢市))」を行った。約50名の中国語学習者,中国語教育従事者の参加があった。ここでも理論的研究の発表と模擬授業に分けて行った。参加者たちには,実際の授業でのレアリアの活用例を提案し,何を学べるか,学びのポイントを伝えることができた。

(2) それぞれが現地でフィールドワークを行ったり,資料分析した結果を(1)や以下5.で示す,研究会・学会発表,講演会,書籍出版,論文発表などができ,中国語学習者や中国語教育従事者に広く還元することができたことは何よりの成果である。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計8件)

荒川 清秀「街の中国語から見えてくるもの」、『中国学志』,査読無、30号、2015、pp.22-30

荒川 清秀「中国語教材における語彙について」、『中国語教育』,査読有、13号、2015、pp.18-31

中西 千香「レアリア:Webやアプリからみる中国、中国語」、『中国語教育』,査読有、12号、2014、pp.23-30

中西 千香「レアリアにあらわれる中国語の語彙的特徴~スーパーのチラシを中心に」、『日中語彙研究』,査読有、3号、2014、pp.23-46

荒川 清秀「中国語教育における語彙指導 - 語素の問題から考える」、『高等学校中国語教育研究会会報』,査読無、23号、2014、pp.6-15

中西 千香「初修外国語における中国語教育の一例~ICT活用とからめて~」、『漢字文献情報処理研究』,査読有、14号、2013、pp.74-82

荒川 清秀「日中語彙の交流史」、『日本語学』,査読無、32巻13号、2013、pp.4-13

植村 麻紀子「翻訳の授業におけるレアリア活用の意義」、『神田外語大学紀要』,査読無、27号、2013、pp.243-262

[学会発表](計32件)

荒川 清秀「中国の街でみる漢字 - 日中漢字の意味の違いを考える -」中部日本書道会一宮支部書道講演会(招待講演)2016.3.6 於一宮スポーツ文化センター(愛知県一宮市)

植村 麻紀子「主体的・協働的な学びを育むジグソー活動 - 「翻訳を通して中国理解を広げよう」プロジェクト」中国語教育学会研究会 2016.1.10 於九州産業大学(福岡県福岡市)

荒川 清秀「中国の街でみる中国語」大学院中国研究科リレー講座(招待講演)2015.11.21 於愛知大学車道校舎(愛知県名古屋市)

植村 麻紀子「中華料理のレシピを読んでもみよう - レアリアで学ぶ中国語」文教大学大学院付属言語文化研究所 中国語教育夏期講座(招待講演)2015.7.31 於文教大学(埼玉県越谷市)

荒川 清秀「レアリアは書き言葉の世界」中国語教育学会研究会「レアリアのツボ,レアリアのチカラ~レアリアで学ぶ,教える中国語のために 第3弾」2015.7.18 於金沢市近江町交流プラザ(石川県金沢市)

明木 茂夫「日本漫画中国語翻訳版の教材的価値~何がどのようにどこまで使えるか~」中国語教育学会研究会「レアリアのツボ,レアリアのチカラ~レアリアで学ぶ,教える中国語のために 第3弾」2015.7.18 於金沢市近江町交流プラザ(石川県金沢市)

植村 麻紀子「初級クラスでレアリアをどう活用するか~食品パッケージと料理のレシピを中心に」中国語教育学会研究会「レアリアのツボ,レアリアのチカラ~レアリアで学ぶ,教える中国語のために 第3弾」2015.7.18 於金沢市近江町交流プラザ(石川県金沢市)

塩山 正純「模擬授業:ニュース記事で中国語~書き言葉を読んで,話し言葉で伝える」中国語教育学会研究会「レアリアのツボ,レアリアのチカラ~レアリアで学ぶ,教える中国語のために 第3弾」2015.7.18 於金沢市近江町交流プラザ(石川県金沢市)

中西 千香「模擬授業:買い物の場面からレアリアの導入 - ワークシートで学びを進める」中国語教育学会研究会「レアリアのツ

ボ、レアリアのチカラ～レアリアで学ぶ、教える中国語のために 第3弾」2015.7.18 於金沢市近江町交流プラザ（石川県金沢市）

中西 千香「レアリアで学べる中国語～その特徴と導入例」高等学校中国語教育研究会関東支部研修会（招待講演）2015.3.28 於慶応大学三田キャンパス（東京都港区）

中西 千香「より自己発信型にするための初級中国語教育～この一年の試行と評価を中心に～」中国語教授法研究会第二回研究会2015.2.28 於関西大学（大阪府吹田市）

荒川 清秀「街の中国語から見えてくるもの」大阪市立大学中国学会（招待講演）2014.12.6 於大阪市立大学（大阪府住吉区）

植村 麻紀子「レシピで学ぶ、おいしい中国語」中国語教育学会研究会「レアリアのツボ、レアリアのチカラ～レアリアで学ぶ、教える中国語のために～第2弾」2014.10.25 於愛知大学名古屋校舎（愛知県名古屋市）

中西 千香「レアリアを学ぶとは？」中国語教育学会研究会「レアリアのツボ、レアリアのチカラ～レアリアで学ぶ、教える中国語のために～第2弾」2014.10.25 於愛知大学名古屋校舎（愛知県名古屋市）

荒川 清秀「レアリアの楽しさとは？」中国語教育学会研究会「レアリアのツボ、レアリアのチカラ～レアリアで学ぶ、教える中国語のために～第2弾」2014.10.25 於愛知大学名古屋校舎（愛知県名古屋市）

明木 茂夫「漫画に学ぶ、日中/中日、翻訳の心得」中国語教育学会研究会「レアリアのツボ、レアリアのチカラ～レアリアで学ぶ、教える中国語のために～第2弾」2014.10.25 於愛知大学名古屋校舎（愛知県名古屋市）

塩山 正純「新聞記事をつかって学ぶ 書きことばと話しことば、それから文化背景」中国語教育学会研究会「レアリアのツボ、レアリアのチカラ～レアリアで学ぶ、教える中国語のために～第2弾」2014.10.25 於愛知大学名古屋校舎（愛知県名古屋市）

植村 麻紀子、藤井達也「高等学校における中国語教育の現状と課題」獨協大学創立50周年シンポジウム「複言語教育の現在と未来」（招待講演）2014.9.27 獨協大学（埼玉県川越市）

植村 麻紀子「中国語 - 学ぶことと教えること - 「補語」を例にして」文教大学大学院附属言語文化研究所 中国語教育夏期講座（招待講演）2014.8.1 於文教大学（埼玉県川越市）

中西 千香「レアリアを利用した授業の具体案」外国語教育ワークショップ「プチ IT を利用した外国語教育の実践」2014.7.26 於関西大学（大阪府吹田市）

④中西千香「知っとく！リアルな中国語 - レアリアで身近に学ぼう」中京大学国際教養学部中国語講演会（招待講演）2014.7.15 於中京大学（愛知県名古屋市）

②上村 圭介、植村 麻紀子、藤井 達也「「グ

ローバル人材育成のための外国語教育政策に対する提言 - 高等学校における複数外国語必修化に向けて（日本言語政策学会多言語教育推進研究会）」について）中国語教育学会研究会2014.7.12 於日本大学（東京都世田谷区）

③中西 千香「テキスト・検定・現実のはざままで - 買い物のシーンを例に」中国語教育学会第12回全国大会2014.6.8 於大東文化大学（東京都練馬区）

④荒川 清秀「中国語教材における語彙」中国語教育学会第12回全国大会シンポジウム「中国語教材のあゆみ - 過去から未来へ」2014.6.7 於大東文化大学（東京都練馬区）

⑤中西 千香「レアリアの中国語学習における価値 - スーパーのチラシを通して」中国語教育学会研究会「レアリアのツボ、レアリアのチカラ～レアリアで学ぶ、教える中国語のために」2013.10.12 於愛知大学名古屋校舎（愛知県名古屋市）

⑥荒川 清秀「中国の街で見る漢字を通して - に日中の漢字の意味の違いを考える」中国語教育学会研究会「レアリアのツボ、レアリアのチカラ～レアリアで学ぶ、教える中国語のために」2013.10.12 於愛知大学名古屋校舎（愛知県名古屋市）

⑦明木 茂夫「日本漫画中国語翻訳版の教材的価値 学科目と一般教養科目をめぐって」中国語教育学会研究会「レアリアのツボ、レアリアのチカラ～レアリアで学ぶ、教える中国語のために」2013.10.12 於愛知大学名古屋校舎（愛知県名古屋市）

⑧塩山 正純「中級テキストからのステップレアリア“口述実録（インタビュー）”は「使えるところ満載」中国語教育学会研究会「レアリアのツボ、レアリアのチカラ～レアリアで学ぶ、教える中国語のために」2013.10.12 於愛知大学名古屋校舎（愛知県名古屋市）

⑨植村 麻紀子「翻訳教材としてのレアリア」中国語教育学会研究会「レアリアのツボ、レアリアのチカラ～レアリアで学ぶ、教える中国語のために」2013.10.12 於愛知大学名古屋校舎（愛知県名古屋市）

⑩中西 千香「初修外国語中国語教育の私的取り組み」漢字文献情報処理研究会2013年度サマー・カンファレンス「大学教養課程とICT教育」（招待講演）2013.7.26 於北海道大学（北海道札幌市）

⑪中西 千香「知っとく！リアル中国語 - レアリアで楽しく学ぶ」2013年度北京大学・立命館大学連携講座「中国2013 - 中国社会・中国語・中国経済の最前線 -」（招待講演）2013.7.6 於立命館大学（京都市中京区）

⑫中西 千香「レアリア：Web やアプリからみる中国、中国語」中国語教育学会第11回全国大会「ワークショップ：デジタルで授業を豊かに！」2013.6.1 於中央大学（東京都八王子市）

〔図書〕(計5件)

中西 千香 『現代中国語における前置詞の機能分化と動詞とのかかわり』、好文出版、2015、244P

荒川 清秀 『動詞を中心にした中国語文法論集』、白帝社、2015、362P

荒川 清秀 『中国語を歩く 辞書と街角の考現学 パート2』、東方書店、2014、302P

明木 茂夫 『オタク的翻訳論 日本漫画の中国語訳に見る翻訳の面白さ 卷十一』、自費出版、2013、20P

荒川 清秀 「日中字音語基の造語機能の対照」、野村 雅昭編 『現代日本漢語の探究』、東京堂出版、2013、PP60-82

〔産業財産権〕 なし

〔その他〕

ホームページ等

中国語教育学会 HP

<http://www.jacle.org/>

中国語教育学会研究会 中国語教育・学習に関するワークショップ

<http://www.aichi-u.ac.jp/information/pdf/131012.pdf>

<http://www.aichi-u.ac.jp/information/pdf/20141025realia.pdf>

6. 研究組織

(1)研究代表者

中西 千香 (NAKANISHI, Chika)

愛知県立大学・外国語学部・准教授

研究者番号：50548592

(2)研究分担者

荒川 清秀 (ARAKAWA, Kiyohide)

愛知大学・地域政策学部・教授

研究者番号：00167230

明木 茂夫 (AKEGI, Shigeo)

中京大学・国際教養学部・教授

研究者番号：10243867

塩山 正純 (SHIOYAMA, Masazumi)

愛知大学・国際コミュニケーション学部・教授

研究者番号：10329592

植村 麻紀子 (UEMURA, Makiko)

神田外語大学・外国語学部・准教授

研究者番号：70512383

(3)連携研究者 なし